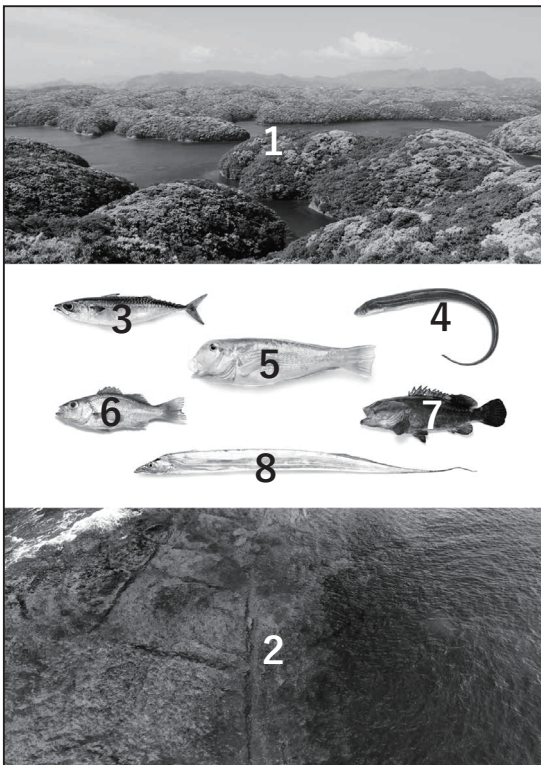




# 対馬魚類図鑑

— 対馬のさかなと人の暮らし —

対馬市



表紙の写真

1. 浅茅湾の風景 (TM)
2. 対馬の海岸 (KY)
3. マサバ
4. マアナゴ
5. アカアマダイ
6. アカムツ
7. クエ
8. タチウオ

# 対馬魚類図鑑

－対馬のさかなと人の暮らし－

対馬市

# はじめに

対馬市長

比田勝 尚喜



対馬近海は、対馬暖流がもたらす豊かな漁場に恵まれ、水産業は対馬の基幹産業として重要な位置を占めています。また、対馬沿岸の藻場環境は、多種多様な魚介類の産卵場や稚魚の成育場として、大切な機能を有しています。

しかし、近年、対馬の水産業を取り巻く環境は、水産資源の減少、対馬周辺の漁場競合、高い輸送コスト、漁業者の高齢化等、多くの問題を抱えています。対馬管内の水産物の水揚げ高は、昭和 57 年には約 4 万 7 千トン、345 億円ありましたが、平成 28 年には約 1 万 4 千トン、151 億円まで減少しています。漁協組合員数についても、漁業収入の減少等による水産業離れが進み、昭和 57 年には 7,744 人いましたが、平成 28 年には 4,156 人まで減少し、特に若年層の島外流出による

後継者不足に歯止めがかからない状況が続いています。対馬沿岸では、藻場の減少・消失が進行し、磯焼けの顕在化が深刻な問題となっています。

また、全国の消費者も生きた魚を見る機会が減っていますが、海に囲まれた離島である対馬においても、地元の美味しい海の幸を食べたり、子どもたちが身近に海と触れ合ったりする機会が減っています。水産物の生産、流通、消費等の各段階における様々な要因によって、対馬の水産業は衰退傾向にあります。

このような現状を踏まえ、海の生態系を守り豊かな水産資源を次世代に残し、持続可能な漁業を確立するには、漁業者だけでなく、対馬の海から恩恵を受けている全ての人々が、対馬の海の魅力、重要性、問題・課題等に関心を持っていただくことが大切であり、

まずは、対馬の海に関する様々な情報を島の内外を問わず、多くの人々が共有することが、持続可能な漁業の確立への第一歩になると考えます。

今般刊行の「対馬魚類図鑑」は、対馬ならではの魚類図鑑を目指して、対馬市と九州大学が連携し、地元の漁業者、漁協、関係機関等の協力を得て、編集・制作しました。対馬の海に生息

する魚介類の紹介を核として、対馬周辺の海洋環境、漁村の暮らし、地元の魚料理等にも焦点をあてています。本図鑑をとおして、対馬で暮らす皆様には地元の海をより身近に感じ、対馬の海の魅力を再発見していただき、島外の皆様には、国境の島対馬に興味・関心を持っていただくきっかけとなることを期待しています。



浅茅湾の風景 (TM)



# 目次

はじめに・・・・・・・・・・・・・2

目次・・・・・・・・・・・・・5

「対馬魚類図鑑」によせて・・・・・・・・6

## 対馬の代表的な魚たち

アカアマダイ・・・・・・・・・・・・・10

アカムツ・・・・・・・・・・・・・12

クエ・・・・・・・・・・・・・14

タチウオ・・・・・・・・・・・・・16

マアナゴ・・・・・・・・・・・・・18

マサバ・・・・・・・・・・・・・20

## 対馬の美しい魚たち

イサキ・・・・・・・・・・・・・24

イラ・・・・・・・・・・・・・25

カサゴ・・・・・・・・・・・・・26

カツオ・・・・・・・・・・・・・27

キアンコウ・・・・・・・・・・・・・28

ゴマサバ・・・・・・・・・・・・・29

タカノハダイ・・・・・・・・・・・・・30

ハガツオ・・・・・・・・・・・・・31

ブリ・・・・・・・・・・・・・32

ホウボウ・・・・・・・・・・・・・33

マアジ・・・・・・・・・・・・・34

マダイ・・・・・・・・・・・・・35

アイゴ・・・・・・・・・・・・・36

アカササノハベラ・・・・・・・・・・・・・36

イシガキダイ・・・・・・・・・・・・・37

イトフエフキ・・・・・・・・・・・・・37

イトヨリダイ・・・・・・・・・・・・・38

オキエソ・・・・・・・・・・・・・38

オニカサゴ・・・・・・・・・・・・・39

カイワリ・・・・・・・・・・・・・39

カゴカキダイ・・・・・・・・・・・・・40

カワハギ・・・・・・・・・・・・・40

ガンギエイ・・・・・・・・・・・・・41

キダイ・・・・・・・・・・・・・41

キュウセン・・・・・・・・・・・・・42

シログチ・・・・・・・・・・・・・42

チカメキントキ・・・・・・・・・・・・・43

トラザメ・・・・・・・・・・・・・43

ハコフグ・・・・・・・・・・・・・44

ホシザメ・・・・・・・・・・・・・44

ホシノエソ・・・・・・・・・・・・・45

マエソ・・・・・・・・・・・・・45

マトウダイ・・・・・・・・・・・・・46

ミノカサゴ・・・・・・・・・・・・・46

ムツ・・・・・・・・・・・・・47

モヨウカスベ・・・・・・・・・・・・・47

ユメカサゴ・・・・・・・・・・・・・48

ヨロイイタチウオ・・・・・・・・・・・・・48

## 対馬魚類学あれこれ

磯焼けと磯の魚・・・・・・・・・・・・・50

対馬の地方名・・・・・・・・・・・・・52

2017年度調査で撮影した魚種・・・・・・・・55

環境DNAメタバーコーディング・・・・・・・・56

対馬の郷土食と魚・・・・・・・・・・・・・60

対馬市民の参加型魚図譜・・・・・・・・・・64

参考文献・・・・・・・・・・・・・67

謝辞・・・・・・・・・・・・・68

# 「対馬魚類図鑑」によせて

対馬魚類図鑑制作委員会

九州大学大学院 工学研究院 生態工学研究室

清野 聡子

対馬の魚類図鑑があったなら、それも漁業を基礎とした、と夢想してきました。

対馬暖流、それは黒潮の分流として、東シナ海の水を伴いながら、日本列島と大陸の間の対馬海峡に流入してくる海流です。その激しい流れの場に、対馬は流れに対して少し斜めに位置しているために、島の北東には対馬渦という渦流が生じて、栄養豊かな水をもたらし、対馬周辺の海を豊かな漁場にしていきます。また、西岸の沖には、対馬舟状海盆という細長い深海があります。一方、東岸の沖は九州本土との間に比較的浅い海底が広がっています。

このようなダイナミックな特徴のある海に恵まれ、対馬は特別な島なのです。

対馬市では、2010年から海洋保護区の検討を進めています。水産資源を持続的に得るために、また海洋環境の保全のために、漁業が未来



釣り上げられたばかりのアカアマダイ (SS)

に続くように、対馬の回りの海を計画を立てて守っていく予定です。ところが、保護区を考えるには、どこに、どのような生物が生息しているのか、という基礎的な生物多様性の情報が不足気味でした。

そこで、まずは魚類の調査を九州大学では2014年9-12月に実施しました。対馬で採集できる魚の入手に励みました。漁業協同組合や住民の方々のご協力により、漁業で採れていても流通ルートには乗らない魚を入手できました。また過去の文献からも魚の記録を集めました。141科379種の魚(海水魚359種、回



遊魚 10 種 淡水魚 10 種) が文献から確認されました。さらに3ヶ月間で42科63種の実物が現地調査で確認されました。漁網で獲れるサイズに限定されていますので、岩の間に隠れ住んでいたり、泳ぎ回る小魚は、見えていても採集は困難でした。研究室の中で、つしま魚図鑑を作成したのですが、短時間で背景も調整せずに撮影したので、写真の質に課題がありました。本格的な魚類図鑑が必要との話が盛りあがってきました。

この豊かな漁場の対馬の海に脅威が迫っています。漂流・漂着ゴミ、そして急激な「磯やけ」の悪化です。調査の現場で、これらの魚について高齢の漁師さんや漁村の住民の方々の魚談義がとても面白く、対馬の方々が日々魚と生きてきたのを実感しました。地域名も興味深いものでした。

海水温の変化や磯焼けで生態系もどんどん変わっていきます。対馬の魚への知見や経験もその変化とともに消えてしまうのか、焦りと哀しみのような気持ちに襲われました。

その後、2016年より環境DNAメタバーコーディングという手法を導入したところ、10リットルの水から90種類近い魚が検出されています。これは日本列島沿岸でも高い値で、対馬の魚類の多様性に改めて目を開か

れる思いです。対馬にこれだけの海があって、漁業に未来がないはずがありません。

このたび、水揚げされたばかりの魚を提供いただく機会を得て、プロのカメラマンに大変美しい写真を撮っていただくことが出来ました。この図鑑をもとに、対馬の漁業、住民、訪問者、関心のある多くの方々が、あらためて対馬の魚の美しさと面白さに感動し、この魚が残る対馬の海にむけて歩いていただけたら幸いです。



水揚げされたホウボウ (SS)



磯で獲れる魚たち (SS)

